

データサイエンス共同利用基盤施設
令和2年度 第4回運営会議 議事概要

日 時：令和2年9月18日（金）15:00～16:00

場 所：ウェブ会議（zoom を利用）

出席者：

【外部委員】 諏訪委員、高橋委員、中井委員、堀委員、矢嶋委員、横山詔一委員、
横山雅之委員

【内部委員】 藤山委員、小原委員、門倉委員、前田委員、北本委員、野口委員、
上野委員、野水委員

【陪席】 荒木特任教授、橋本企画連携課副課長、昨間 DS 推進係長、
遠藤 DS 推進係員

議 事：

議事に先立ち、昨間 DS 推進係長から、定足数を満たしていることから本会議が成立することが報告された。

続いて、藤山委員から、前回書面審議が手続き上の不備により取り下げとなったことについてお詫びがあった。

審議事項

1. 前回議事要旨確認

修正意見等がある場合は会議終了までに申し出ることとし、特段の意見はなかったため、案のとおり確定した。

2. 2020 年度人事について（採用）

北本委員、野口委員から、資料2-1・2-2（回収資料）に基づき、データサイエンス推進室特任教員及びゲノムデータ解析支援センター特任研究員の採用について説明があり、審議の結果、2 件の採用について承認された。

報告事項

3. 2020 年度公募型共同研究（第2回）の募集結果について

野水委員から、資料4に基づき、2020 年度公募型共同研究（第2回）の募集結果について0 件であった旨報告があった。また、本プロジェクトの開始年から今年度までの公募状況を示した上で、今回0 件であった理由について説明があり、以下の意見交換を行った。

・1 回目の募集の際に不採択となった3 件について、再応募の呼びかけは行ったか。

→別予算で実施中などの理由で断念されたものもある。

・核融合研のような大型設備を利用した共同研究の場合、コロナの影響はどの程度か。

→海外を含めリモート参加可能とする環境を急ぎ整備している。従来のやり方とは大きく変化すると思われる。

- ・今回の募集期間は 20 日間と短い、どのような理由からか。

→研究の実施期間を十分に確保することが目的であったが、応募の準備期間が短くなったという点は今後検討が必要と考える。

4. 第 4 期中期目標期間に向けての検討状況について

藤山委員から、資料 3－1 に基づき、機構の成り立ちから第 3 期までの活動概要、第 4 期の展望について説明があった。次いで資料 3－2 に基づき、外部評価委員からの評価結果及び対応案について説明があり、コメント及び対応内容について意見をいただきたい旨依頼があった。以下の意見交換を行った。

- ・資料 3－1 の法人 4 期の項目に連合体の記載があるが、DS 施設はどの程度連合体に関する議論に影響を受けると思われるか。

→連合体の中の研究力強化 WG において DS 施設の名前が挙がっているが、連合体自体に新たな予算が付くわけではないため、あまり影響を受けずに進めたいとは思っている。

- ・データサイエンスは様々な研究分野で今後重要となるが、すべての大学共同利用機関法人がデータを供給できるわけではない。機関によってデータサイエンスへの関与の度合いに違いがあるのだが、その点については DS 施設として調整していくのか、それとも現場の研究機関から要請を出していくのか。

→まだ議論できていない。連合体でも、データサイエンスやオープンデータの話は出ているが、データサイエンスの浸透度合いは分野や研究者個人によって異なり、DS 施設だけでできるものではない。どういう形で連合体に関わるかは検討が必要である。

- ・ゲノムデータに関しては、データは集まっているが解析する人材が足りないという状況かと思う。今後の DS 施設の役割として、解析する人材を育てる交流の場になることも重要ではないか。

→外部評価委員からも同様の指摘をいただいた。

海外では解析する人材が大勢いるが、日本では優秀な人材は企業に流れてしまう。しかし、バイオ系は今後解析等が必須な分野なため、教育でなくともオンザジョブの形で活動できる場所を作ることが重要であり、それが DS で行えるとよいと思う。解析を支援した機関の学生に自分のデータの解析をやってもらう形にしていきたい。

- ・シーケンサーの解析性能が上がり、生データを大量にとることができるようになった反面、それを解析する人材が不足しており、私の所属大学では解析を依頼する先生の院生にも来てもらって解析する等している。

- ・第 4 期の予算規模はこれまでと変わらないのか。その規模によってできることは変わってくるので、DS 施設としてのプレゼンスを外に示していくためにはかなりの人数が必要ではないか。

→現在は 550,000 千円だが最低 1,000,000 千円の要求をしている。ただ、それでも少ないという意見もあり、ある程度は研究所との調整が必要と思う。

- ・今後は AI でのデータ解析という点も含めて対応できる高度な人材が必要となるが、そのような人材は外から集めるのか、自分たちで育成するのか。

→遺伝研、情報研、統数研と連携して検討していきたい。これはライフ系に限らず、人

文系、社会系、データ同化、地球科学においても状況は同じである。

- ・海外、特に中国ではデータ解析に意欲的な人材は多くいる。海外も視野に入れた受け入れ態勢を作る必要がある。
- ・データを生産する側と解析する側の交流できる仕組み作りが大切だと思う。DS 施設にはその両方がバランスよく備わっており、ポテンシャルがあると思う。

5. その他

野水委員から、9 月 23-25 日オンライン開催予定の国際ワークショップ“Global Collaboration on Data beyond Disciplines”について紹介があり、登録、参加いただきたい旨依頼があった。

以上

資 料：

- 0-1 データサイエンス共同利用基盤施設運営会議委員名簿
- 0-2 情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設運営会議規程
- 1-1 令和2年度第1回運営会議議事概要（案）
- 2-1 2020年度人事案件 審議対象者リスト
- 2-2 2020年度人事案件 審議資料（回収）
- 3-1 第4期中期目標・中期計画検討WG（第2回）資料 [DS 施設]
- 3-2 第4期中期目標・中期計画検討WG（第2回）資料 [外部評価報告対応]
- 4 DS 公募状況の推移